

# 事例12:「お客さんによく見える看板にしよう」 5歳児(12月)

幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)との関連

②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑥思考力の芽生え ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  
⑨言葉による伝え合い

## これまでの姿

- ・11月末から小さい組を客に招き、店員になりきってお店屋さんごっこをして遊ぶ姿が見られた。
- ・小学校の1年生との交流活動で、おもちゃ祭りに参加し、店番や好きなコーナーでの入れやくじ引きをして楽しんだ。

## ◎ねらい◎内容

- ◎友達と思いや考えを伝え合いながら、イメージしたものを実現させていくことを楽しむ。
  - 友達同士でイメージを共有し、提案したり、受け入れたりしながら協力して作る。
  - いろいろな材料や道具を使い、試しながら製作する。
  - 本物らしく作ろうとし、細かなところに気付いて丁寧に作る。

架け橋期のカリキュラムとの関連  
(遊びの中で経験させたいプロセス)

クラスの色々な友達とつながりをもつ  
遊びや生活の集団が広がる  
これまでの経験を生かす  
満足感を味わう ⑨クラスの仲間と力を合わせる  
自分の力を発揮する 友達と気持ちを通わせる  
イメージや考えを交流する  
失敗しても諦めない 本物らしさにこだわる  
イメージを膨らませる  
経験を生かして再現する



## 遊びの様子(番号:10の姿との関連)

アクセサリー屋さんの2人は、お店に看板が必要であることに気付いた。③水色と青の画用紙を貼り合わせて丸く切り、そこに鉛筆で店名とお店のイメージに合った絵を描いた。「先生できた！」と満足した様子で言いに来た。保育者は、お客さんにとって2人が作った看板が役割を果たしているのか自身の気付きを大切にしてほしいと願い、少し離れたところから看板をしてみるよう提案した。2人は、看板を遠くから見て、次第に⑥⑨「あー、でも青い方は見えん。」「(色画用紙の)色が濃すぎた。」「うさもも(1,2歳児)の人達が見えんかもしれん。ペンで書く？」とA児が言った。④⑥⑧⑨どの色にするか話し合い、B児が「あったかい色にしたい！」と言い、黄色のマーカーで鉛筆書きの上をなぞった。離れて見てみるとまだ見えにくく、A児が黒のマーカーでなぞってみてはどうかと提案した。離れた所からでもよく見えることを確認し、②お客さんにとってよく見える看板が作れたことを満足そうにしていた。

## ★環境の構成 ○保育者の関わり

★思いを形にできるように看板作りに必要な素材(色画用紙、色紙、木工ボンド、段ボール片、モール、自然物、木の実、落ち葉など)を十分準備し、製作スペースを広く取るようにする。

○子ども達の考えている看板に近い画像をICTを使って提示したり、話し合ったことを図にしたりすることで、イメージをより具体化できるようにしていく。



○子ども達の思いやアイデアを受け止めながら、お客さんによく見えるように、工夫したり確認したりする中で、達成感が味わえるような言葉掛けをする。

## 「お店屋さんごっこ」の看板作り活動のプロセス

### 共通したイメージの実現

○お客さんの立場になって看板を見るよう提案する

○必要に応じてICT機器を使いイメージの共有をする

### 友達と一緒に作る・調べる

★必要となりそうな素材を準備する

★スペースを広く取る

どんな看板がいいか考える

## 遊びや学びのプロセス(10の姿)

### ③数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

「大きい」「丈夫」「見やすい」「おしゃれ」など看板に必要な要素に気付き、お客さんにとってよく見えるように作ろうとする。

### ④道徳性・規範意識の芽生え

お客さんのことを意識した看板を作る。



### ⑤協同性

お客さんにとってよく見える看板を作ること为目标に、子ども同士でイメージをすり合わせ、工夫しながら作ろうとする。

### ②自立心

友達と看板作りという共通の目的に向かって工夫し、諦めずにやり遂げる満足感を味わう。

### ⑨言葉による伝え合い

よりよい方法を考え、話したり、一人が離れて看板を持ち「見える？」と確認したりしながら製作を進める。

### ⑥思考力の芽生え

鉛筆や黄色のマーカーで書いた文字の見えづらさに気付き、どの色で書いたら見えやすいかなど話し合いながら試行錯誤する。

## 小学校教員の気付き



◆子供達が話し合う中で、案を出し合って工夫していくことで納得のいく看板が仕上がっている。このような活動は、小学校でも引き継いでいきたい。

◆一緒に作っていく中で、

- ・思いを出し合って
- ・相談しながら
- ・葛藤しながら
- ・折り合いをつける。

小学校で大切にしている力の基礎を培っているなと思いました。

## 保護者への発信ポイント



◆子供達同士が話し合う中で、例えば、2人で話し合い、案を出し合うことでよりよいものを協力して作っている。これは相手の気持ちに気付いたり取り入れたりすることや、コミュニケーション能力、協同してよりよい物を作る力を育てている等、幼児期の終わりまでに育てほしい姿(③協同性)を発信ツールの1つとして伝えていくのもいいですね。